



shin

## 中国の「ある食堂」

日本では、この数年の間に「子ども食堂」が話題になりました。一人でご飯を食べている子供、お腹をすかせている地域の子供達に低額または無料で食事ができる「場」、つまり「食堂」を提供する取り組みです。

実は、中国にも似たような取り組みの食堂があります。こちらの対象は子供がメインではなく、八割以上が高齢者だそうです。食堂の名称は「雨花齋」といいます。無料でベジタリアン料理をランチタイムに提供します。

主な利用者は、一人暮らしの高齢者、ホームレス、障害者ですが、他にも町の清掃員、近辺住宅地の守衛室の職員などさまざまです。中には、居心地の良さの為か寂しさを紛らわす為か、日々バスで通ってくる人もいます。

「雨花齋」は2011年、中秋の名月の頃に、中国浙江省建安市にある廣安寺の元住職・文全長老により設立されました。彼はほとんど全ての私財を寄付したそうです。その志に共鳴した何人かの篤志家と力を合わせ、第一号の公益ベジタリアン食堂「雨花齋」を立ち上げました。

第一号店が運営開始されてから約7年が経ちました。店舗の数は着実に増え、今では世界中に1000店舗ほどになりました。そのうち約900店舗は中国で運営されています。国の助成金は一切受けていませんが、これまでに資金問題で閉店するお店はありませんでした。有識者や篤志家からの寄付によって、健全な運営がされているそうです。

設立者の文全長老は、いままで数多くの高齢者の面倒を見てきていました。彼の願いは、社会全体が年配者（特に一人暮らし、子供に恵まれていない高齢者）を大事にすることです。その願いの一環として、公益の敬老事業「雨花齋」に取り組みました。

この食堂の趣旨は「尊い命に敬意を払い、殺生せず、慈悲心を持ち、ベジタリアンとして生きる」ことです。

ベジタリアン料理なので、原材料のコストはそれほど高くないようですが、無料で提供しているのので、食事に来る人々が多くなると長期に安定運営していくのは容易なことではありません。

昼食時、ボランティアの人達は小さい声で感謝の言葉を述べながら、利用する人々に丁寧に対応します。列に並んでもらい、順番に食事を受け取れるようお世話をします。

また、食べ物を無駄にしないよう、食べられる量のみ受け取るように声をかけます。食事中、ボランティアは「私語禁止、完食徹底」のプラカードを持ちながら食堂内を静かに歩きます。「雨花齋」は中国において唯一、食べ残しが出ない食堂だそうです。

食堂のおかずはごく普通のメニューですが、ボランティアの皆さんが優しく接してくれるので、利用者はまるで我が家にいるような温かさを感じるようです。

誰にでも同じものを提供します。ご飯とおかずのお代わりは自由、またテイクアウトも可能だそうです。無料で提供しているのので、初めての利用でも、手持ちのお金が無くても、安心して食事ができます。

ボランティアが定期的に、来店者に好きな食べものは何かを確認していますが、「食事さえ提供してもらえれば、特にメニューにこだわらない」という回答が殆どとのこと。利用者にとって、贅沢な料理は出なくとも温かい食事で心が満たされることに感謝の念でいっぱいなのだそうです。

食後は周りの人達とたわいのない話をします。まるで家族のように、互いの今後のため、頑張ろうと励ましあったりもするようです。

元気なお年寄りも、食事が済んだら自ら食器洗いを手伝ったり、床の掃除をしたり、自分ができることを喜んで実行しているそうです。

ある農家の人は自分の畑で採れた野菜を店舗に無償で提供しています。また、毎月50キロもの白米を寄付している人もいますが、実は、彼はゴミを拾い換金して生計を立てています。自分の生活も大変なはずなのに、体力がある限り自分よりもっと大変な人を助けたい一心からだそうです。ある一人暮らしの高齢者は、自分の冷蔵庫にある野菜を店に持ち込んだりもします。ほんの少しでも「雨花齋」の力になりたいそうです。

オープン当初は、ただ食事を目当てに来ていた人々が、いつの間にか「雨花齋」の理念に賛同するようになり、ボランティアとして働いたり、伝統文化の講師として協力したり、少しずつですが変化が見られるようです。

ボランティアの中には、いろいろな身分の人達があります。夏（冬）休み中の大学生や、たまたま旅行で最寄りの雨花齋の前を通った人や、あるいは近所の会社で勤務中のサラリーマンが昼休みの時間を活用し手伝いに来たりします。長期でお世話する定年退職後の人達もいます。

午前11時からのランチタイムに間に合わせる為、ボランティアの皆さんは早朝6時から開店の準備を始めます。自分の仕事を持っている人もいますが、利用者のために自分の自由時間を割いて取り組んでいます。

ある女性の話によると、「店を手伝って一年あまり経ちましたが、仕事以外のことで人のために役に立つのがとても嬉しく感じています」とのこと。「ありがとう」と言われ、心からの笑顔をもらうと、自分の心もとても満たされるということでした。

「雨花齋」の食事は無料ですが、料理の質はしっかりと管理されています。例えば、当日ご飯の量が足りなくなったら、すぐに麺を茹で始めます。利用者には必ずお腹いっぱい食べてもらうことを心がけているそうです。なぜなら、「雨花齋」は利用者にとって家庭のような存在でありたいと考えているので、家族には食べ足りない思いをさせたくないのです。

中国各地にある「雨花齋」は、一見、チェーン店のように見えますが、組織上は何も関わりがなく、資金管理上も各店が独立運営しているそうです。あくまで「雨花齋」の趣旨に賛同した多くの協力者達が自ら発心し、利用者のために可能なことを考慮し貢献しているのだそうです。

この素晴らしい理念と、それに共感する協力が増えることにより、ますます「雨花齋」の活動が広まって行くといいですね。